

大会企画シンポジウム 2

9月13日(日) 11:20~12:20 3号館1階 50周年記念館

不易流行と看護ーさまざまな看護の立場からー

【概要】

本シンポジウムは、看護の本質である「ケア」と、心理学が支える「人間理解」を統合し、現代の看護実践を応用心理学の視点から捉え直すことを目的とする。看護は、看護の対象となるさまざまな人と最も長く、最も近く関わる専門職であり、行動・感情・意思決定を理解するための心理学的視点を欠くことができない。行動分析学、コミュニケーション科学、発達・認知心理学などの知見は、患者の安心感や治療行動の継続、意思決定支援、環境調整に直結し、医療現場の課題に対応するための基盤となっている。医療技術や社会構造が大きく変化し、AIをはじめとするデジタル技術が急速に進展する中で、看護の役割は大きく変化し、さらに拡大し続けている。しかし、社会がどのように変化しても、看護の根底にある「人の尊厳を守り、その人らしさを支える」という立場に変わりはない。変化するものと変わらないものが併存する現代において、看護は応用心理学の知見を最も実践的に活用する領域であるともいえる。

本シンポジウムでは三名のシンポジストをお迎えする。学生相談・修学サポートセンターのオーガナイザー、病院管理者として副院長兼看護部長、そして行動科学の実践・研究者というそれぞれの立場からご登壇いただき、その後の討議の中で、激動し変化し続ける社会の中でも変わらず求められる「ケアの本質」を再確認する。さらに、心理学と看護が連携することで新たな価値を生み出す可能性について探る場としたい。

【シンポジスト】

岩村純子(熊本保健科学大学 学生相談・修学サポートセンター)

水主いづみ(静岡県立静岡がんセンター)

中嶋一恵(筑波大学発ベンチャー(株)SDS SAT 情動認知行動療法研究所)

*五十音順

【司会】

多久島寛孝(熊本保健科学大学 保健学部)